

『庵村に堂見と云所に、石動山権現を移し奉りていかけ山と云ふ。本名は箴籬山也。昔五十四坊ありし也。今は權現社別當三坊あり。』とある。

**イカゴマタハチ 五十子又八** 青山吉次の家士。慶長五年八月前田利長の大聖寺攻城に従ひ奮闘功を立てた。末孫は詳かでない。

**イカタママガハ いか玉川** 鳳至郡内保領山から流出し、内保で八ヶ川に落合ふ。水源から落合まで六軒許。

**イカハコウハク 五十川剛伯** 字は濟之、鶴泉と號した。洛儒梅庵の子で、平生慷慨にして氣を貢ふの風があつた。剛伯二十歳の時、寛文八年七月前田綱紀歳俸三十人扶持及び銀三十枚を給し、朱舜水に従遊せしめ、延寶三年五月學略成るを以て、藩の儒員に列して祿三百石を食ましめたが、天和元年舜水歿するに及んで歸藩した。元祿元年十一月剛伯、綱紀の旨を奉じて學寮問辨一百四十六卷中の助語集要一部十三卷を撰じ、又詩範一部九冊を編した。剛伯の才學は平岩仙桂と相伯仲し、一時國卿大夫本多政敏・奥村蕙輝・津田孟昭・本多政冬の輩其の門に遊んだ。晩年城西の僻處に山齋を結んで遊息の所となし、梧月軒と名づけた。その詩文集に鶴泉集がある。元祿十一年十二月、剛伯その子源一郎の賢銀の罪に坐して、生駒直政の家に錮せられ、明年五月二十六日能登の曲村に諭せられ、源一郎は前田大膳に預けられて後劔首となり、次男當三郎は父と共に流刑となつた。

**イガラシアツヨシ 五十嵐篤好** 一名厚義。幼字小五郎、長じて小豊次といひ、後に父の名を襲ぎて孫作と改めた。臥牛齋・香瀨・鳩

夢・雉岡・鹿鳴花園等の號がある。寛政五年十二月越中礪波郡内島村に生まれ、文化八年十村に任せられ、文政二年藩侯が民俗革新を企てた際能登島に流された。その論居中、伊夜比咩神社の神職船木連老を訪ひて歌書を繙き、赦免の後歌を本居太平に學び、又費を富士谷御杖に執り、文政十二年近江の望月幸智を迎へて言靈の奥義を受けた。安政五年豊後

の千住弘太夫が越中に入るや、その農事に精しきを以て留めて彼が説を聞いたが、事諦の知る所となり、流浪人を宿泊せしめた故を以て閉門を命ぜられること一年に及んだ。篤好又關流の算學を石黒信由に學んで、文化八年允可を得、安政四年十二月新器測量法を刊行した。晩年多く金澤に住し、文久元年正月二十四日歿、享年六十九。著す所五十嵐五考・課役考・郷莊考・雉岡隨筆・同續編・歌學初訓・歌學次訓・歌學三訓・富士谷御杖歌文集・湯津爪櫛・伊勢物語披雲・天朝墨談・言靈旅曉・名言結本末・散書百首式紙形・養老和歌集・無目籠・神典秘解等があり、その他農政等に關するもの亦多い。昭和三年十一月十日特旨を以て從五位を追贈せられた。

**イガラシゴウホイ 五十嵐五考補遺** 一冊。弘化三年武部敏行著。五十嵐篤好の著した改作方五考に漏れたことを記したものである。

**イガラシシヨウスケ 五十嵐庄助** 描金工。庄助は五十嵐長左衛門道廣の子與右衛門尚廣の二子で、別に一家を創立した。號は指月。寛政九年に歿した。庄助の弟長左衛門隨甫嗣

ぎ、技術優秀なるを以て二人扶持を給せられたが、天保八年七十餘歳で歿した。その子長

左衛門祐甫、文政八年以來壽命を受けて製作に従つたが、嘉永二年宗家の絶えた後を襲ぎ、明治十年歿した。

**イガラシシヨウベイ 五十嵐庄兵衛** 描金工。庄兵衛は古道甫の門人であるが、技術優秀であつた爲五十嵐氏を冒すことを許された。庄兵衛の子長左衛門道廣は明和五年に歿し、長左衛門の弟庄吉春道は安永三年に歿した。道廣の子與右衛門尚廣第三代となり、天明六年に歿し、その長子與右衛門尚廣は、五十嵐氏中興と稱せられる名手で、文化八年に歿した。嗣なく、加藤庄次郎なる者入りて第五代となり、與右衛門尚廣の名を襲いだ。號は春湖。亦精妙の譽を得、天保八年四十八歳で歿した。長子源次郎景信出で、佐賀野屋甚助の家を襲ぎ、次子與三郎は別に家を起して與右衛門尚廣になつた。號は春甫。之を以て季子乙吉が春湖の後を襲ぎ第八代となり、後に長左衛門と改めた。嘉永二年歿し、子なく、支流長左衛門祐甫入つて統を受けた。

**イガラシソウベイ 五十嵐宗兵衛** 描金工。初代宗兵衛は喜三郎道甫の存生中その養子になり、後に喜三郎といつた。元文四年七月歿。二代も宗兵衛で、寛延三年十二月病死。三代宗兵衛は前田重教が明和三年參觀の際幕府に献納する時繪を襲した。四代宗兵衛は後に宗平と改め、文政六年五月歿。五代宗平は文政七年御用時繪師となり、嘉永二年十月歿。六代宗平も藩末の御用時繪師であつた。

**イガラシチ 五十嵐癡** 大聖寺の人。通稱幸太郎。號は拙山。藩侯に仕へて祿四十俵を受け、畫を東方芝山に學んでその高足であつたが、晩年殆ど筆を執らなかつた。明治二十

餘年の頃六十餘歳を以て歿。

**イガラシドウホ 五十嵐道甫** 描金工。甫庵の子。幼名忠三郎。京都須磨町に住したが、寛永中前田利常の聘に應じて金澤に下り、退老の後洛に歸つて歿した。世に之を古道甫といふ。

**イガラシドウホ 五十嵐道甫** 描金工。道甫第二代。初名喜三郎。京都室町の幸阿彌清三郎の弟で、古道甫に養はれ、共に金澤に下つた。後家を襲ぎ、亦道甫と稱して御門前町に住した。その死は元祿十五年以後正徳五年以前と推定する理由がある。

**イカリ 五十里** 鳳至郡中野郷に屬する部落。

**イカリイシ 五十里石** 鳳至郡五十里から産する石材。安山岩質凝灰岩で、稍赤味のある灰白色安山岩質石基中に、白色粘土及び黑色輝石様の礫を混じり、硬くして脆い。

**イカリガハ 碓川** 石川郡富樫庄の額乙丸にある。寶永誌に、昔手取川が此の處を流れて居た時、唐船が着岸して碇を下した所だと書いて居るが、全然架空である。

**イカリハチマンクウ 五十里八幡宮** 鳳至郡五十里に鎮座する。當社藏年號不詳の棟札に『八幡宮、相殿山王神明多門天安鎮、鳳至郡中野郷五十里村』とあり、文政の社號帳には火宮五十里村鎮座とする。今火宮神社と稱するものこれである。

**イガンイン 怡岩院** 鹿島郡三引に在つて、眞言宗に屬し、赤藏神社の別當であつた。初め天正中赤藏山の僧坊は兵燹に罹つて衰微したが、長連龍の田鶴濱に住するに及んで、その一つであつた大聖院を復興せしめ、父續連